

社会福祉法人クピド・フェア定款

第1章 総 則

(目的)

第1条 この社会福祉法人(以下「法人」という。)は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

(1) 第一種社会福祉事業

(イ) 障害者支援施設「くピドワーク&ハイム」の経営

(ロ) 特別養護老人ホーム「こぶし」の経営

(ハ) 障害者支援施設「パシオ」の経営

(2) 第二種社会福祉事業

(イ) 老人短期入所事業「こぶし」の経営

(ロ) 老人デイサービス事業「ほほえみプラザ」の経営

(ハ) 障害福祉サービス事業「くピドワーク&ハイム」の経営

(ニ) 障害福祉サービス事業「K・P1」の経営

(ホ) 障害福祉サービス事業「パシオ」の経営

(ヘ) 障害福祉サービス事業「イランカラブテ」の経営

(ト) 共生型障害福祉サービス事業「くピドワーク&ハイム」の経営

(チ) 障害児通所支援事業「ぱしお」の経営

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人クピド・フェアという。

(経営の原則等)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、地域の障害者、高齢者等を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を北海道岩見沢市志文町301番地3に置く。

第2章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名～11名を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

2 評議員選任・解任委員会は、監事1名、職員1名、外部委員1名の合計3名で構成する。

- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。
- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は、全ての委員が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員が出席し、かつ、外部委員が賛成することを要する。

(評議員の任期)

- 第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。
- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。
 - 3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

- 第8条 評議員に対して、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

第3章 評議員会

(構成)

- 第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

- 第10条 評議員会は、次の事項について決議する。
- (1) 理事及び監事の選任又は解任
 - (2) 理事及び監事の報酬等の額
 - (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準の承認
 - (4) 理事及び監事の責任の免除
 - (5) 定款の変更
 - (6) 解散の決議
 - (7) 合併の承認
 - (8) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
 - (9) 残余財産の処分
 - (10) 基本財産の処分
 - (11) 社会福祉充実計画の承認
 - (12) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

- 第11条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後3ヶ月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

- 第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。
- 2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議

員会の招集を請求することができる。

(決議)

- 第13条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。
- (1) 監事の解任
 - (2) 定款の変更
 - (3) その他法令で定められた事項
- 3 評議員会に議長を置くこととし、その都度評議員の互選で定める。
- 4 評議員会の決議において、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 5 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。
- 6 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

- 第14条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
- 2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名が議事録に署名する。

第4章 役員及び職員

(役員の数)

- 第15条 この法人には、次の役員を置く。
- (1) 理事 6名以上10名以内
 - (2) 監事 2名
- 2 理事のうち1名を理事長とする。
- 3 理事長以外の理事のうち、1名以上を業務執行理事とすることができる。
- 4 顧問及び常務理事を置く場合は、理事会の同意を得て、理事長が委嘱する。
- 5 顧問は、理事長の諮問に答え、役員立場をもって理事長及び理事会に対して意見を述べる。
- 6 常務理事は、理事長を補佐し、理事長の命を受けて、この法人の業務を処理する。

(役員を選任)

- 第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。
- 2 理事長及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

- 第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。
- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

3 理事長及び業務執行理事は、毎会計年度に4ヶ月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第18条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第19条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお、理事又は監事としての権利義務を有する。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。

(役員解任)

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第21条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

(責任免除)

第22条 理事及び監事が任務を怠ったことによって生じた損害について社会福祉法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、社会福祉法第45条の20第4項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第113条第1項の規定により免除することができる額を限度として理事会の決議によって免除することができる。

(職員)

第23条 この法人に職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長（以下「施設長」という。）は、理事会において、選任及び解任する。

3 施設長以外の職員は、理事長が任免する。

第5章 理事会

(構成)

第24条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第25条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものに

については、理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び業務執行理事の選定及び解職

(招集)

第26条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故あるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第27条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。
- 3 理事会に議長を置くこととし、その都度理事の互選で定める。
- 4 理事会の決議において、可否同数のときは議長の決するところによる。

(議事録)

第28条 理事会の議事録については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した理事及び監事は、前項の議事録に署名する。

第6章 資産及び会計

(資産の区分)

第29条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産、公益事業用財産及び収益事業用財産の4種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

- (1) 北海道岩見沢市志文町301番地3、309番地9、317番地1所在の鉄筋コンクリート鉄骨造陸屋根亜鉛メッキ鋼板葺6階建（うち1・2・4階の一部、5・6階）及び平屋建 重度身体障害者授産施設くびどワークショップ園舎並びに作業棟各1棟（6、477平方メートル48）
- (2) 北海道岩見沢市志文町301番地3、309番地9、317番地1所在の鉄筋コンクリート鉄骨造陸屋根亜鉛メッキ鋼板葺6階建（うち1・2・4階の一部、3階）身体障害者療護施設くびどハイム園舎1棟（4、952平方メートル00）
- (3) 北海道岩見沢市志文町301番地9所在の鉄筋コンクリート鉄骨造陸屋根3階建特別養護老人ホームこぶし園舎1棟（7、777平方メートル61）
- (4) 北海道岩見沢市志文町309番地18、309番地9、309番地20所在の鉄筋造陸屋根平屋建 身体障害者授産施設K・P'96園舎1棟（1、148平方メートル99）
- (5) 北海道岩見沢市志文町301番地3、309番地9、317番地1所在の鉄筋コンクリート鉄骨造陸屋根亜鉛メッキ鋼板葺6階建（うち1・2階の一部） 老人サービスセンターほほえみプラザ園舎1棟（928平方メートル46）
- (6) 北海道岩見沢市志文町301番地32、309番地18所在の鉄筋造陸屋根平屋建、身体障害者通所授産施設アゴラ作業所1棟（621平方メートル07）
- (7) 北海道岩見沢市志文町355番地46所在の鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺2階建 身体障害者授産施設分室1棟（818平方メートル10）
- (8) 北海道美唄市東7条南4丁目1451番地632、1451番地633、1451番

- 地166所在の鉄筋コンクリート造陸屋根2階建 障害者支援施設パシオ園舎1棟
(5、652平方メートル32)
- (9) 北海道美唄市東4条北9丁目1114番地68、1114番地69、1114番地70、1114番地71所在のコンクリートブロック造亜鉛メッキ鋼板葺2階建(281平方メートル84)
- (10) 北海道美唄市東4条北9丁目1114番地76所在のコンクリートブロック造亜鉛メッキ鋼板葺2階建(281平方メートル84)
- (11) 北海道岩見沢市志文町299番地8所在の木造合金メッキ鋼板葺平屋建 障害福祉サービス事業所アシリ・和來作業所1棟(390平方メートル68)
- (12) 北海道岩見沢市栗沢町由良213番地4所在鉄骨造合金メッキ鋼板葺2階建、障害福祉サービス事業所K・P1栗沢工場1棟(1,273平方メートル65)
- (13) 北海道岩見沢市志文町319番地23所在木造樹脂シート葺2階建、障害福祉サービス事業所イランカラプテ1棟(507平方メートル01)
- (14) 北海道美唄市東5条南4丁目79番地2306所在の鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺2階建、障害福祉サービス事業所グループホームパシオ1棟(870平方メートル)
- (15) 北海道美唄市西3条北2丁目1257番地81、1257番地100所在の木造亜鉛メッキ鋼板葺2階建、障害福祉サービス事業所グループホームパシオ1棟(281平方メートル)
- (16) 北海道岩見沢市志文町301番地3の土地(11、236平方メートル56)
- (17) 北海道岩見沢市志文町309番地9の土地(1、404平方メートル63)
- (18) 北海道岩見沢市志文町301番地11の土地(3、078平方メートル)
- (19) 北海道岩見沢市志文町309番地18の土地(1、686平方メートル)
- (20) 北海道岩見沢市志文町309番地20の土地(270平方メートル)
- (21) 北海道岩見沢市志文町317番地1の土地(683平方メートル28)
- (22) 北海道岩見沢市志文町301番地26の土地(6、786平方メートル)
- (23) 北海道岩見沢市志文町301番地32の土地(3、673平方メートル)
- (24) 北海道岩見沢市志文町355番地46の土地(1、063平方メートル98)
- (25) 北海道岩見沢市志文町301番地2の土地(2、556平方メートル37)
- (26) 北海道岩見沢市志文町301番地9の土地(2、537平方メートル90)
- (27) 北海道岩見沢市志文町301番地10の土地(823平方メートル50)
- (28) 北海道岩見沢市志文町301番地16の土地(490平方メートル33)
- (29) 北海道岩見沢市志文町301番地17の土地(374平方メートル44)
- (30) 北海道岩見沢市志文町301番地18の土地(121平方メートル50)
- (31) 北海道岩見沢市志文町299番地8の土地(15、983平方メートル)
- (32) 北海道岩見沢市志文町299番地9の土地(352平方メートル)
- (33) 北海道岩見沢市志文町299番地11の土地(2、839平方メートル)
- (34) 北海道岩見沢市志文町319番地15の土地(891平方メートル38)
- (35) 北海道岩見沢市志文町319番地23の土地(830平方メートル21)
- (36) 北海道岩見沢市栗沢町由良213番地4の土地(6、249平方メートル)
- (37) 北海道美唄市東5条南4丁目79番2306の土地(2、972平方メートル71)
- (38) 北海道美唄市西3条北2丁目1257番81の土地(322平方メートル31)
- (39) 北海道美唄市西3条北2丁目1257番100の土地(161平方メートル15)
- 3 その他財産は、基本財産、公益事業用財産及び収益用事業財産以外の財産とする。
- 4 公益用事業財産及び収益用事業財産は、第37条に掲げる公益を目的とする事業及び第38条に掲げる収益を目的とする事業の用に供する財産とする。
- 5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続きをとらなければならない。

(基本財産の処分)

第30条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、北海道知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、北海道知事の承認は必要ない。

- (1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資を言う。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

(資産の管理)

第31条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。
- 3 前項の規定にかかわらず、基本財産以外の資産の現金の場合については、理事会の議決を経て、株式に換えて保管することができる。

(事業計画及び収支予算)

第32条 この法人の事業計画書及び収支予算書は、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第33条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
 - (2) 事業報告の附属明細書
 - (3) 貸借対照表
 - (4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）
 - (5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
 - (6) 財産目録
- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。
 - 3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。
 - (1) 監査報告
 - (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
 - (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
 - (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第34条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第35条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第36条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって議決する。

第7章 公益を目的とする事業

(種別)

第37条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

- (1) 診療所「くびどクリニック」の経営
- (2) 居宅介護支援事業の経営
- (3) 障害者向低家賃住宅「イランカラプテ」の経営

2 前項の事業の運営に関する事項については、特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって議決する。

第8章 収益を目的とする事業

(種別)

第38条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、次の事業を行う。

- (1) 簡易郵便局「岩見沢くびど簡易郵便局」の経営
- (2) 売店「ハマナスクラブくびどユアーズ店」の経営

2 前項の事業の運営に関する事項については、特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって議決する。

(収益の処分)

第39条 前条の規定によって行う事業から生じた収益は、この法人の行う社会福祉事業又は公益事業（社会福祉法施行令（昭和33年政令第185号）第13条及び平成14年厚生労働省告示第283号に掲げるものに限る。）に充てるものとする。

第9章 解散

(解散)

第40条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第41条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

第10章 定款の変更

(定款の変更)

第42条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、北海道知事の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更したときは、遅滞なくその旨を北海道知事に届け出なければならない。

第11章 公告の方法その他

(公告の方法)

第43条 この法人の公告は、社会福祉法人クピド・フェアの掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第44条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

- ・この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長	杉	野	昭	一
理事	倉	増	新	八郎
理事	吉	田	英	治
理事	森		保	
理事	石	塚	昇	
理事	細	野	愷	
理事	深	見	松	太郎
理事	深	井	英	二